

世田谷区立桜丘中学校 国語

光村図書「国語1」	年間指導時数	140時間	学年	1	学級	A～F組
-----------	--------	-------	----	---	----	------

1.学習の到達目標

学習の達成目標	言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質。能力を育成する。 (1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言語が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
使用教科書・副教材など	「国語1」（光村図書）/「問題中心の新文法ノート」（浜島書店）/「観点別評価テスト 積み上げ国語1年」（明治図書） /「単元別 漢字の学習1」（明治図書）

2.学習指導計画及び評価方法等

学期	月	単元タイトル	学習のねらい	活動内容	評価の観点のポイント		
					知識・技能 ○は重点	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度 粘り強い態度で、問題解決に向けて自ら工夫・調整して取り組もうとしている。
		4 野原はうたう	★音声の動きや仕組みについて理解を深めている。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	1 詩を通読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 3 詩の特徴を生かして音読する。	・音声の動きや仕組みについて、理解を深めている。 ○この単元に出てくる語句を理解し、活用できるようになる。		【態】音声の動きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
		5 シンシユン	★心情や行動を表す語句に注意して読む。 ○場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえる。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	1 作品を通読する。 2 作品の全体像をとらえる。 3 場面の展開に沿って、二人の関係の変化を整理する。 4 読みを深めたり、感想を交流したりする。 5 本文からテーマを得て200字作文を書く。 6 学習をふりかえる。	○事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使っている。 ・語感を磨き語彙を豊かにしている。		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ・作品の内容を実生活に結びつけて考え、書こうとしている。
		5 ダイコンは大きな根？	★比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ○文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	1 作品を通読する。 2 文章の中心的部分をとらえる。 3 段落の役割について考える。 4 考えたことを発表し合う。 5 学習をふりかえる。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 ○この単元に出てくる漢字や語句を理解し活用できるようになる。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。	【態】文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
1	6	ちよっと立ち止まって	★原因と結果、意見と根拠などの情報と情報との関係について理解する。 ○文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。 ▼説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。・段落のまとまりに着目し、文章の要旨をとらえる。	1 本文を通読する。 2 文章の構成に着目し、要旨をとらえる。 3 文章の構成に着目し、その効果を考える。 4 考えたことを伝え合う。 5 学習をふりかえる。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・それぞれのまとまりの要旨をまとめる。 ○この単元に出てくる漢字や語句を理解し活用できるようになる。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。	【態】進んで要旨を把握し、学習の見直しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
	6	詩の世界	★比喻・反復・倒置・体言止めなどの表現技法を理解し、使う。 ○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	1 作品を音読する。 2 詩を読んで、感じたことを交流する。 3 描かれた情景や表現の効果について話し合う。 4 詩の良さを発表する。 5 学習をふりかえる。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見直しをもって詩を創作しようとしている。

7	7	<p>比喩で広がる言葉の世界</p>	<p>★比喩について理解し、言葉についての考えを深める。 ○文章全体における各段落の役割をおさえ、文章の内容を正確にとらえる。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 本文を通読する。 2 段落の役割をおさえて読み、内容を捉える。 3 比喩表現の効果について考える。 4 学習をふりかえる。</p>	<p>【知・技】 比喩などの表現の技法を理解している。</p>	<p>【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p>	<p>【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>
		<p>7 情報社会を生きる</p>	<p>★比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ○目的や意図に応じ、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 調べる内容を絞り込む。 2 調べ方を考え、情報をあつめる。 3 情報を読み取る。 4 情報の適切な引用のしかたを考える。 5 著作権について知る。 6 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 ・グラフの種類と読み方、比較の仕方について理解し、活用することができる。 ○情報の引用の仕方、典拠の示し方を理解している。</p>	<p>【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じ、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p>	<p>【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。</p>
<p>【一学期の評価材料】 「知識・技能」 ①積み重ねテスト（語彙・漢字・文法・表現技法等） ②積み重ね総合テスト ③再テスト 「思考・判断・表現」 ①積み重ね総合テスト（読解・表現） ②授業観察 ③ワークシート・提出物 「主体的に学習に取り組む態度」 ①積み重ねテスト ②積み重ね総合テスト ③再テスト ④授業観察 ⑤ワークシート・提出物</p>							
2	9	<p>大人になれなかった弟たちに</p>	<p>★読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。 ○場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。 2 描写に着目して、登場人物の心情をとらえる。 3 題名のもつ意味を考える。 4 表記に込められた作者の意図を考える。 5 学習をふりかえる。</p>	<p>【知・技】 読書が知識を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p>	<p>【思・判・表】 「読むこと」において場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について描写を基にとらえている。</p>	<p>【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもととしている。</p>
		<p>9 話の構成を工夫しよう</p>	<p>★音声の動きや仕組みについて、理解を深める。 ○目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 話題を決め、材料を選ぶ 2 話の構成を考える。 3 スピーチの練習をする。 4 スピーチをする。 5 学習をふりかえる。</p>	<p>【知・技】 音声の動きや仕組みについて、理解を深めている。 ・スピーチのポイントを知る。 ○会話とスピーチの違いについて把握している。</p>	<p>【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。</p>	<p>【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>
		<p>10 蓬萊の玉の枝</p>	<p>★音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。 ○場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。 2 古典の文章について、現代の文章の違いを確かめる。 3 描かれている古典の世界を創造する。 4 学習のふりかえりをする。</p>	<p>【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。</p>	<p>【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p>	<p>【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>
		<p>10 星の花が降るころに</p>	<p>★比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う。 ○場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、な内容を解釈する。 ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。 2 「私」を中心に作品の内容をおさえる。 3 場面や描写を結び付けて読む。 4 印象に残った場面や描写について発表する。 5 学習のふりかえりをする。</p>	<p>【知・技】 比喩・反復・倒置・体言止めなどの表現技法について理解している。</p>	<p>【思・判・表】 「読むこと」において場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。</p>	<p>【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって伝え合おうとしている。</p>

11	シジュウカラ	<p>★原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。</p> <p>○文章の構成や展開について根拠を明確にして考える。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを述べようとする。</p>	<p>1 本文を通読する。</p> <p>2 文章の構成と内容を捉える。</p> <p>3 論の展開に着目し、その効果を考える。</p> <p>4 結論に説得力を持たせるため、どのような工夫をしているのか、本文の記述や図表などを根拠として示しながらまとめる。</p> <p>5 学習のふりかえりをする。</p>	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
	今に生きる言葉	<p>★音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにする。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 漢文を音読し、独特なリズムや言い回しに親しむ。</p> <p>2 本文を読み、故事成語について理解する。</p> <p>3 故事成語を使って、体験文を書く。</p> <p>4 学習をふりかえる。</p>	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。	【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書くようとしている。
	不便の価値を見つめ直す書写	<p>★原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。</p> <p>○比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使う。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 本文を通読し、内容をとらえる。</p> <p>2 筆者の考えを要約する。</p> <p>3 根拠を明確にして、意見をまとめる。</p> <p>4 学習をふりかえる。</p>	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ○この単元に出てくる漢字や語句を理解し活用できるようになる。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。

【二学期の評価材料】

「知識・技能」 ①積み重ねテスト（語彙・漢字・文法・表現技法等） ②積み重ね総合テスト ③再テスト
「思考・判断・表現」 ①積み重ね総合テスト（読解・表現） ②授業観察 ③ワークシート・提出物
「主体的に学習に取り組む態度」 ①積み重ねテスト ②積み重ね総合テスト ③再テスト ④授業観察 ⑤ワークシート・提出物

1	考える人になろう	<p>★読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <p>2 文章を読んで考えたことをグループで話し合う。</p>	【知・技】 ・読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 ・比喻・反復・倒置・体言止めなどの表現の技法を理解し、使っている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	【態】 ・読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。
	少年の日の思い出	<p>★事象の行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を豊かにする。</p> <p>○文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <p>2 作品の展開を捉える。</p> <p>3 「僕」の心情の変化をまとめる。</p> <p>4 作品について考えを交流する。</p> <p>5 作品からテーマを得て200字作文を書く。</p>	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ○この単元に出てくる漢字や語句を理解し活用できるようになる。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。

3	2	大阿蘇	<p>★事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	1言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
	2	随筆二編	<p>★事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <p>2 語句や表現の工夫に着目する。</p> <p>3 筆者の考えや思いについて話し合う。</p> <p>4 自分の体験をふりかえて伝え合う。</p> <p>5 学習をふりかえる。</p>	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	【思・判・表】 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。	【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
	3	さくらはなはびら	<p>★比喻・反復・倒置・体言止めなどの表現の技法を理解使う。</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。</p> <p>2 3つの表現の意味を考える。</p> <p>3 作者の思いについて考える。</p>	【知・技】 比喻・反復・倒置・体言止めなどの表現の技法を理解し、使っている。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。
<p>【3学期の評価材料】</p> <p>「知識・技能」 ①横み重ね総合テスト ②再テスト</p> <p>「思考・判断・表現」 ①横み重ね総合テスト（読解・表現） ②授業観察 ③ワークシート・提出物</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」 ①横み重ねテスト ②横み重ね総合テスト ③再テスト ④授業観察 ⑤ワークシート・提出物</p>							